



2022年3月号

ウトナイ湖通信

No.214

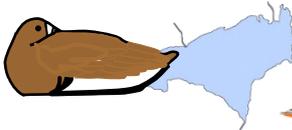
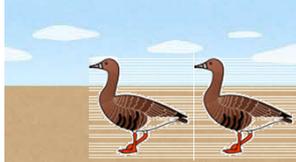
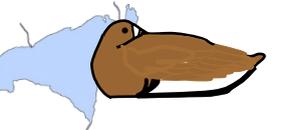
ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

ウトナイ湖春の名物 ガン類のねぐら立ち・ねぐら入り

例年3月は、越冬地の本州から繁殖地のロシア方面を目指すガン類が中継地となるウトナイ湖に立ち寄ります。その多くはマガンで、次いでヒシクイ（亜種ヒシクイ、亜種オオヒシクイ）が多いです。2021年の春は、3月13日に最大59,400羽前後が確認されました。

【春のガン類の動き】

夜間	日の出	昼間	夕方	夜間
ウトナイ湖でねぐらをとる	ねぐら立ち	周辺の田畑で採食	ねぐら入り	ウトナイ湖でねぐらをとる
				

春のガン類は昼間に周辺の田畑で、落穂などを採食しています。そのため、ウトナイ湖で観察が楽しめるのは、早朝と夕方です。日の出や日の入り前に湖岸沿いで待っていると、タイミングがよければ賑やかなガン類の声とともに、数万羽が織りなす壮大な景色が見られるかもしれません。どのくらい飛来しているか等の最新情報は、センターに、お問い合わせください。



早朝のねぐら立ちの様子

2月20日 ボランティア体験講座「自然情報収集体験」を開催しました

当センターのボランティア活動を体験いただくための標記の講座を実施し、市内外から6名の皆さんに参加いただきました。

当日は館内でレクチャーを行なった後、自然観察路を歩き「自然情報収集調査」を体験いただきました。途中で聞こえたツグミやコゲラの声が地鳴きであることや、野鳥が食べる植物の名前等をお伝えし、調査用紙に記入いただきました。また結氷した湖上に現れたエゾシカも観察することができました。最後に、来館者向けに自然紹介カードに記入いただきました。調査に参加すると自然散策とは違った視点で自然が見えてくることや、冬の自然観察のおすすめポイントが記載されています。調査結果と共に館内に掲示します。



実際に活動しているボランティアさんからレクチャーを受ける参加者

調査中レンジャーが撮影したエゾシカ→



【自然観察路情報】 観察された生きもの

2022年2月18日(金) 10:00~11:40

《野鳥》ハシブトガラ、ゴジュウカラ、コゲラ
オオアカゲラ、トビ、ヒヨドリ

《植物》【冬芽】ホオノキ、キタコブシ 【実】ハンノキ

《その他》雪上の足跡(キタキツネ、エゾシカ、エゾリス、種類不明ネズミ
キジ、ハクセキレイ)、オビカレハ(蛾)の卵

ハシブトガラ



ゴジュウカラ



コゲラ



オオアカゲラ



※イラストはオス。メスは頭部の赤い部分が黒い。

【水鳥カウント調査結果】

2022年2月17日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 * ()内は個体数

オオハクチョウ(9羽)、オカヨシガモ(12羽)、ヨシガモ(5羽)、ヒドリガモ(1羽)
マガモ(25羽)、ハシビロガモ(2羽)、コガモ(14羽)、ミコアイサ(1羽)、カワアイサ
(2羽)、ダイサギ(3羽)、アオシギ(1羽)、トビ(1羽)、オジロワシ(2羽)、オオワ
シ(2羽)



オオハクチョウ



ヒドリガモ



マガモ



ヨシガモ



ダイサギ



オジロワシ



オオワシ

3月の自然予報

ワシ類が見やすくなるかもしれません

例年3月は湖の結氷が緩み、水面が見られるようになります。その周囲に、魚などを狙ってやってきたオジロワシやオオワシが見られることがあります。

年によっては、3月上旬に湖のほぼ全面が解氷してしまうこともありますので、結氷の状況などは、センターにお問い合わせください。



左から、オオワシ成鳥
オジロワシ成鳥、オジロワシ幼鳥

春の渡りシーズン到来!水鳥が多く見られるかもしれません。

シベリアなどの北で繁殖をする、ハクチョウ類、ガン類、カモ類などが、北上してくる季節です。

例年3月中旬~4月上旬にかけて、渡り途中にあるウトナイ湖で羽を休める姿が見られます。

例年、コハクチョウやオオハクチョウの群れ、マガモやオナガガモ等のカモ類の群れが多く見られますが、昨年2021年の春はあまり多くは見られませんでした。

今年の最新状況は、センターにお問い合わせください。



ヒドリガモ、オナガガモなどのカモ類とコハクチョウ



「コオ、コオ」と、上空を飛行するコハクチョウの群れ



ヒドリガモ



オナガガモ

【ハクガン】

全長約 67cm。マガンやヒシクイといった茶色いガン類が多い中で名前の通り真っ白なガン。ウトナイ湖では、春の数万羽に及ぶマガン等の群れの中に数羽見られるくらいだったが、近年は目撃数が増えており、昨年 2021 年の 3 月中旬には 20 羽前後が確認された。



ウトナイ湖周辺の畑で採食するハクガン（後ろはマガンの群れ）

*ウトナイ湖に関するクイズ
毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。
あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q. 春に渡ってくる夏鳥たち。
例年 3 月中に、ウトナイ湖周辺で
到着が確認されるのはどの野鳥でしょうか？

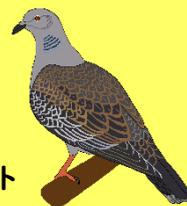
(あ) エゾセンニュウ



(い) クロツグミ



(う) キジバト



答えは最後のページです。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

オオコノハズク

原因：交通事故疑い

体重 160g



搬入時の様子
目をつむったままで、
ほとんど反応しなかった



搬入 4 日目の様子
容体は落ち着いてきたが、
両目の視力は失っていた

12月8日

8：30頃、市民が道路脇で飛ばずにいたところを発見し、センターへ搬送。意識レベルは低く、刺激に反応はなく、時折、頭を水平に振る神経症状を確認。かなり厳しい容体だったが、少しずつ症状改善が見られた。ただ、目の検査において、両目の瞳孔が散大し、光に反応せず視力を失っていることが判明。依然、視力回復に至ってはいないが、容体は安定。餌を認識することができないため、1日3回程度、強制給餌を実施しながら経過観察中。

経過観察中

オオコノハズク（フクロウ目 フクロウ科）全長24cm
雌雄同色。全体に灰褐色で、黒や白、褐色の斑があり複雑な模様になっています。北海道では1年を通じ生息する種で、平地から山地の森林でくらしています。目が大きく、虹彩はオレンジ色をしています。主に哺乳類や小鳥類を捕食しますが、カエルやトカゲ、昆虫なども食べます。

【アイロンビーズで野鳥を作ろう ～ ガン類 編～】

3月26日(土)

①11:00～

②14:00～

マガン、ヒシクイ、ハクガンの中から選んで、アイロンビーズを並べて作ります。

対象：どなたでも(小学生以下は保護者同伴)

定員：各4組(1組2作品まで作れます) 参加費：無料



申し込み：3月1日(火)～25日(金)までの、9時～17時。

電話で当センター【0144-58-2231】へ ※月曜日(祝日の場合はその翌日)は休館日です。

市民ギャラリー

苫小牧の自然写真展 3/1(火)～3/21(月・祝)



苫小牧市民から募集した苫小牧の景観、野生鳥獣、植物、昆虫などの写真を掲示します。

お知らせ

ウトナイ湖野生鳥獣センター 情報発信中

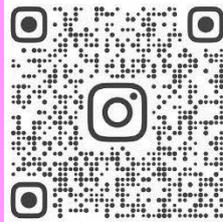
ウトナイ湖の自然情報や、当センターの傷病鳥獣救護活動、イベント情報などを発信しています。下記のQRコードをスマートフォンでスキャンいただくと、ご覧いただけます。



Facebook



Instagram



Twitter



◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時～午後5時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

